

私は今、将来就きたい職業として薬剤師を考えている。このように考えるようになったきっかけが小学4年生の時に行われた1/2成人式だった。この式で将来の夢を発表しなければならず、まだ夢を全く決めていなかった私は自分の将来と向き合ってみた。その時に母が看護師である事、自分が人を助ける仕事をしたいという気持ちがあるということなどの理由から薬剤師というひとつの将来の夢の候補が生まれたのだ。しかし、正直なところ薬剤についての知識はほぼ無いに等しかった。そのため、より薬剤に対する理解を深めるために中学校の行事で職場体験があったので地元のがんセンターに訪問して薬剤師さんに『薬剤』についての話を聞いて、色んな質問をして沢山の事を学んだつもりだった。ところが実際は『薬剤』についてではなく、『薬剤師』についての話だけで薬剤を理解したつもりだった。

そして、この企業訪問で再び薬剤についてお話を聞きたいと思ったのは、中学生で職場体験したときに得た薬剤に関する知識だけでは高校生の自分にしてはまだまだ足りないように感じたからだ。そして、薬剤師を志すグループに入った。すると研修の計画を立てているうちにグループのメンバーには、本当に心から薬剤師、または薬剤に関する職業に就きたいと考えてるんだと伝わってくるくらい多くの知識を持っている人が沢山いた。その時私はまだきっと自分の中で薬剤を将来の就きたい職業として決めきれていないところがあったから周りとの差を感じたのだと考えた。だから、この研修で薬剤について色んな事を学ぶことによって自分がどれくらい薬剤に興味を持っているか自分自身に問いかける良いタイミングにしようとも思った。

まず、どこの企業に訪問するかを考えた時に世界でも活動しているグローバルな企業である事を一番考えて班のメンバーと探していた時に、私達でも知っている製薬会社がランキングに並んでいる中で中々テレビなどのメディアでは聞いたことのなかったアステラス製薬がかなりの上位に出ていたので気になり訪問する事を決めた。このように訪問しようと思ったきっかけは単純だと思われるかもしれないが、アステラス製薬に訪問する上で色んな情報を見ているうちに聞きたい質問が次々とでてきてよりアステラス製薬について知りたいと思うようになっていったのだ。

そして、企業訪問当日になった。地図を持ちながら街をあるいていると、決して宮城では見ることの出来ない日本銀行や有名企業が連なって立っていた。どれだけ進んでも高いビルがあるため私の驚きはアステラス製薬の本社ビルに着くまで終わる事はないくらいずっと続いた。ついに本社ビルに着くと予想していた通り何階まであるか1回見ただけでは分からないくらい大きなビルが目の前にそびえ立っていた。中に入っても、よくテレビドラマで見るとような受付、入場ゲート、会議室がありテレビの中にもでも迷い込んだかんじだった。もちろんアステラス製薬オリジナルであろう多目的ホールのようなものもあり、少しビルの中を見ただけなのにきっとこここの職場環境はとても良いのだろうと感じた。またこんな職場で働きたいとも同時に思った。それから、会議室に案内してもらった。まず始めに飲みたいドリンクを聞かれた。これは衝撃だった。なぜ

なら、アステラス製薬側がわざわざ高校生の私たちに時間を割いてお話をしてくださるのに、私たちに飲み物をくださったからだ。それに

お茶ではなくアイスティーやオレンジジュースなどの種類豊富な飲み物だった。日本のおもてなし精神は私たちの企業訪問という小さい事にも働いているんだと思った。次に自己紹介をしたのだが、私たちの担当をしてくださっていた方が2人とも日本人だと思っていたら1人の方は韓国の方だと紹介を頂き、企業がグローバル化するだけではなく社員までグローバルになっているんだなと思った。私は、ここまででまだ薬剤についての本題ははなされていないにも関わらず既にこれから社会に出ていく人間としていくつか学んでいた。

それから本題に入って質疑応答も含めて薬剤についての話を聞いた。そこでまず、アステラス製薬はなぜあまりメディアでは聞かないのに製薬会社のランキングでは上位にいるのかがわかった。それは、他の製薬会社は医者が処方する医療用医薬品とドラッグストアなどに売っている一般用医薬品の2つを取り扱っているのに対してアステラス製薬は医療用医薬品しか扱っていないからだった。また、医療用医薬品というのは商品名を出して広告してはいけないのだ。確かに考えてみればテレビCMをみても今まで1度もある一つの医療用医薬品についてのCMを見たことがない。

ここで私はアステラス製薬には一般用医薬品を扱うことなく医療用医薬品のみを開発だけをしているからこそその強みがあるのではないかと感じた。なぜなら、新薬をつくるには膨大なお金と時間が必要となる。そのため、他では一般用医薬品の開発に使われてしまう研究費や人材や時間がアステラス製薬では医療用医薬品のみにかかることができるからだ。これにより、世界の製薬会社とも手を組んでより良い新薬をまた新たに開発することも出来ているのだと思う。

私が今回の企業訪問で最も聞きたかったことがあった。それは今少しずつ、世の中のありとあらゆるものが機械化していて、何百年、いや何十年か後には今ある職業の半分は無くなってしまふ。という話を前に聞いていて薬剤師もそのひとつだと知った。また、アステラス製薬での話の中でも海外では医者の仕事の一部をAIつまり人工知能に任せているという事実を知って、その上で私は「将来、新薬の開発にAIが導入されて薬剤師または薬剤の研究者の仕事は無くなってしまふのではないかと疑問に思ったのでお話をしてくださった担当者の方に質問をした。すると、可能性はあると答えが返ってきた。しかし、新薬を開発する中での全ての行程ではなく人間も関わっていく必要があるとも言われたので、将来はひとつの仕事を全うして生きたいと考えていたので私はとても安心した。それなら薬剤に関する職業に就いても中途半端に仕事を終えてしまふ事は無いのだと思った。

今回の企業訪問で、ここには書いたのはほんの一部でしかないくらい多くの話をきいて沢山の知識を手に入れることが出来た。薬剤についての情報が浅かった自分にとってとても良い刺激になった。また、東大のオープンキャンパスで薬学部の説明会に参加したのだがその前日にこの企業訪問でいっぱい学んだ甲斐があってより深く説明の内容を理解することも出来た。

今回の東京研修では企業訪問と東大のオープンキャンパスの他にディレクトフォースの方々

とのディスカッション、二高OB・OGの方とのお話がありどの企画も今の自分、将来の自分どちらの自分にも役立つ内容で溢れていた。私がこの研修に参加した理由は親に「参加してきっと損は無いよ」と勧められて、という簡単な理由だがこの研修に参加して全く後悔していない。むしろ、今までの職業に関する行事の中で一番良い経験になった。これから私は今回の経験から学べたことを使って将来についてもっと深く考えて勉学に励んでいきたい。

最後に、私達の企業訪問にご協力していただいた「アステラス製薬」の皆さんに感謝の気持ちを申し上げます。お忙しい中、私達に薬剤について理解しやすいようにスライドをこのためにつくって頂いたり、一つのひとつの質問に丁寧にお答え頂いたりして頂いたおかげでとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。